

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	UNITED REVOLT		投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル	
RG	2.470	△RG	0.056	●ピン	★PAP	✕CG	■バランスホール

テストボール：UNITED REVOLT

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番

比較対照ボール：REVOLT HAVOC

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工

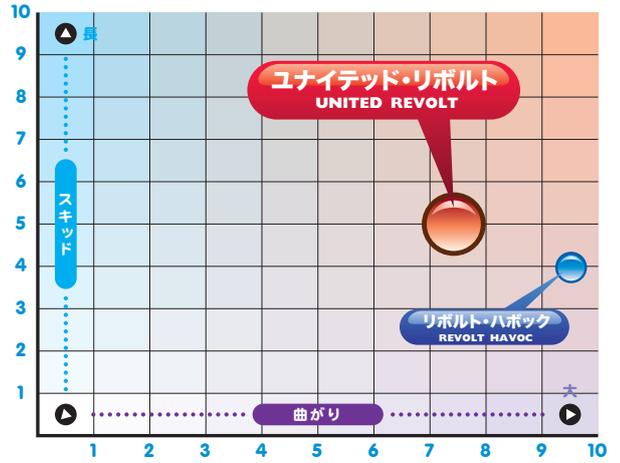
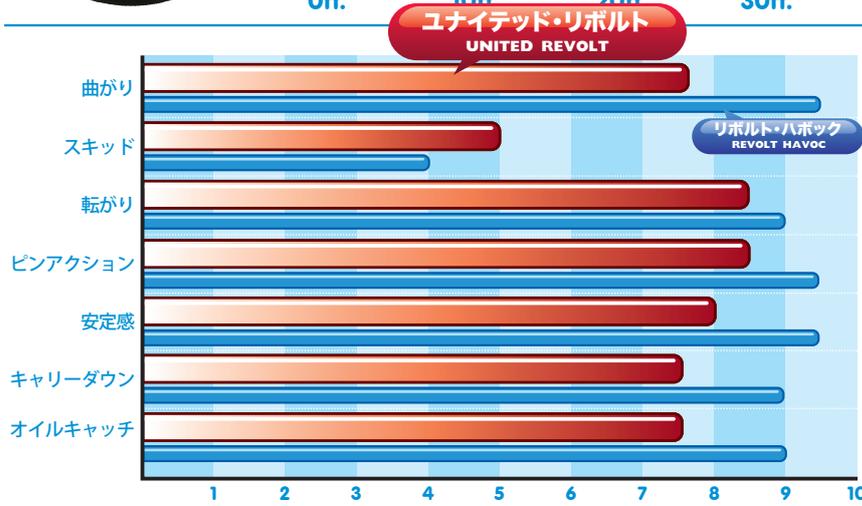
- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

MOTIV社の”REVOLT伝説”はまさにCOVERT REVOLTから始まり、多くの方がREVOLTを求めABSも再販を繰り返しました。MOTIV社の販売代理店を始めてから今もその累計販売個数の記録を持っているのがCOVERT REVOLTで、今もその記録は塗り替えられていません。そのREVOLTの最新作、UNITED REVOLTがリリースされます。今まで数種類のREVOLTが発売されましたが、シリーズ中SOLID CoverStockとHybrid CoverStockのボールはありました。今回初めてPearl素材、Helix HFP(High Friction Pearl)Reactive搭載し、強いBackendをこのUNITED REVOLTに求めました。テストングで前作REVOLT HAVOCと比較投球しましたが、同じVanquish Coreで数値も同じですが、Cover Stockの差がPerformanceをこれだけ変えてしまうのかと思うくらい、ある意味”REVOLTらしくない”リアクションを感じました。私が感じたUNITED REVOLTの性能は、今までの安定した曲りの軌跡が読みやすいREVOLTのイメージから、ドライゾーンで急激に摩擦を生む少し過激なREVOLTという性質に変わったと思います。MOTIVのチームキャプテンの北岡義実プロはPearl素材の走り感を感じても、私ほどドライゾーンでの反応を過激には感じていないようです。それは回転数が多い北岡プロのタイプはボールに与える摩擦が大きいため、私よりも早めにボールの曲りを感じるのでしょう。それが少し落ち着いた曲りに感じるようです。今までMOTIV社から発売されたHigh Friction系でもPearl素材のリアクション形態はPrimal RageやPARANOIAだったりBackendが協調される実績をみれば、このUNITED REVOLTがその系統に分類されても何の不思議もないのかもしれませんが。今までREVOLTはシリーズを通して安定した軌道を描くボールとして存在しました。そのREVOLTがBackendの動きを強調させてきたMOTIV社からどのようなメッセージが隠されているのか。それは実際に投球してみれば分かるでしょう。

特記事項

REVOLTシリーズ初のPearl Coverstockで、REVOLTのイメージを一新させるBackendを強調させたSpec. UNITED REVOLTで攻撃的にラインを攻める！